

令和6年度 事業報告書



社会福祉法人

素心会

目次

1	法人	．．．．．	1 P
2	素心学院	．．．．．	1 3 P
	障害者支援施設（生活介護・施設入所支援・短期入所）		
3	素心デイセンター	．．．．．	1 9 P
	生活介護	．．．．．	1 9 P
	就労継続支援 B 型	．．．．．	2 1 P
4	地域支援センターそしん	．．．．．	2 7 P
	共同生活援助	．．．．．	2 7 P
	相談支援	．．．．．	3 1 P
	児童発達支援	．．．．．	3 3 P
	放課後等デイサービス	．．．．．	3 4 P
	自立支援協議会	．．．．．	3 6 P
	生活介護	．．．．．	3 8 P

1 法人

(1) 法人の主な活動状況

令和6年度は、さざんかホーム再整備に伴い、かもめホームの廃止、新規建築用地の購入、設計・建築工事業者の選定を実施した。入所施設の定員削減として、素心学院の定員を75人から70人に変更した。人材確保策では、インドネシアより特定技能職員の2人を採用した。また、素心学院の浄化槽ブローア交換、給湯循環ポンプ及び膨張タンクの交換、介助浴槽の交換を実施、大磯町の支援及び大磯町作業所等連絡会と共同した福祉ショップの開設などに取り組んだ。

新型コロナウイルスは5類になったものの、感染者は断続的に発生し、そのたび支援体制に影響を受ける状態は続いている。インフルエンザウイルスも含め、基本的な感染症対策は変わっていない。これまでの新型コロナウイルス等への対応をまとめ、感染対策マニュアルを作成した。

(2) 実施事業

施設・事業所	種別	実施事業	
素心学院	第一種社会福祉事業	障害者支援施設	施設入所支援事業
			生活介護事業
	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	短期入所事業
	地域生活支援事業		日中一時支援
素心デイセンター	第二種社会福祉事業	障害福祉サービス事業	生活介護事業
			就労継続支援 B 型事業
	地域生活支援事業		日中一時支援
地域支援センター そしん	第二種社会福祉事業	障害児通所事業	児童発達支援事業
			放課後等デイサービス事業
		障害福祉サービス事業	生活介護事業
			共同生活援助事業（さざんかホーム）
		相談支援事業	障害児相談支援事業
			指定特定（計画）相談支援事業
	市町村委託事業		大磯町基幹型相談支援事業
			二宮町基幹型相談支援事業
			大磯町障害支援区分認定調査事業
			二宮町障害支援区分認定調査事業
二宮町・大磯町障害者自立支援協議会事務局			

(3) 理事会及び評議員会の状況

ア 理事、監事、評議員 令和7年3月31日現在

理事長	萩原 勝己	素心会統括管理室長
常務理事	高瀬 尚人	素心会法人事務局長
理事	米山 勝彦	(社福) 理事長
理事	小林 倫	(社福) 理事長
理事	出縄 守英	(社福) 理事長
理事	大水 健晴	(社福) 理事長
監事	南山 利久	民生委員・児童委員会長
監事	永井 清光	(社福) 理事・施設長
評議員	坂田 泰二	会社代表取締役
評議員	土方 重治	会社役員
評議員	梓田 俊邦	(社福) 評議員
評議員	三箇 正子	元地域民生委員・児童委員並びに地域自立支援協議会会長
評議員	野谷 美恵子	前地域民生委員・児童委員会長、現同委員
評議員	木内 健太郎	居宅介護支援事業所代表
評議員	島田 哲	(社福) 地域支援センター長

イ 理事会の開催

第205回理事会 令和6年6月10日(月)

議案 第1号 令和5年度事業報告について

第2号 令和5年度計算書類及び財産目録の承認について
監事監査報告について

第3号 素心学院利用者定員の変更について

第4号 中期計画について

第5号 かもめホームの廃止新規建築用地購入について

第6号 積立資産への積立について

第7号 令和6年度第一次補正予算(案)について

第8号 第55回評議員会の招集(日時、場所、議案等)について

報告事項 ①社会福祉充実残額について(令和4年度 残額無し)

②理事長及び常務理事の職務執行状況について

第206回理事会 令和6年11月22日(月)

議案 第1号 さざんかホーム再整備事業に伴う定款の変更について

第2号 さざんかホーム再整備事業に伴う設計・建築工事公募型プロポーザル実施要領
について

第3号 令和6年度第二次補正予算(案)について

第4号 神奈川県指導監査の報告・改善について

第5号 諸規定の一部改正について

第8号 第56回評議員会の招集(日時、場所、議案等)について

- 報告事項 ①令和 6 年度事業中間報告について
②理事長及び常務理事の職務執行状況について

第 207 回理事会 令和 7 年 3 月 3 日（月）

- 議案 第 1 号 施設整備等特別積立資産への積立について
第 2 号 令和 6 年度第三次補正予算（案）について
第 3 号 さざんかホーム再整備事業に伴う設計・建築工事業者の選定について
第 4 号 さざんかホーム再整備事業に伴う借入について
第 5 号 令和 7 年度事業計画（案）について
第 6 号 令和 7 年度予算（案）について
第 7 号 諸規程の一部改正について
第 8 号 第 57 回評議員会の招集（日時、場所、議案等）について

- 報告事項 ①役員賠償保険の更新について
②職員の不祥事に係る経過報告について

ウ 評議員会の開催

第 55 回評議員会 令和 6 年 6 月 25 日（火）

- 議案 第 1 号 令和 5 年度計算書類及び財産目録の承認について

- 報告事項 ①令和 5 年度事業報告について
②社会福祉充実残額について
③素心学院利用者定員の変更について
④中期計画について
⑤かもめホーム廃止と新規建築用地購入について
⑥積立資産への積立について
⑦報告事項⑤⑥に係る令和 6 年度第一次補正予算について

第 56 回評議員会 令和 6 年 12 月 2 日（月）

- 議案 第 1 号 さざんかホーム再整備事業に係る定款の変更について

- 報告事項 ①さざんかホーム再整備事業に伴う設計・建築工事公募型プロポーザル実施
要項について
②令和 6 年度事業中間報告について
③令和 6 年度第二次補正予算について
④神奈川県指導監査の報告・改善について
⑤諸規程の一部改正について

第 57 回評議員会 令和 7 年 3 月 26 日（水）

- 議案 第 1 号 さざんかホーム再整備事業に伴う借入れについて

- 報告事項 ①さざんかホーム再整備事業に伴う設計・建築業者の選定について
②施設整備等特別積立資産への積立について
③令和 6 年度第三次補正予算について
④令和 7 年度事業計画について
⑤令和 7 年度予算について

⑥諸規程の一部改正について

⑦役員賠償責任保険の更新について

(4) 監事監査

実施日時 令和6年5月20日(月) 午前10時から午後4時

実施場所 素心学院 地域交流室

監事 南山 利久 永井 清光

監査事項 理事の業務の執行状況及び財産の状況

監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類(計算書類及びその附属明細書)及び財産目録について検討しました。

監査に使用した資料等

①事務局事前提供資料

令和5年度事業報告書

令和5年度決算関係資料、決算報告関連資料及び決算説明資料

財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務実施報告書

新型コロナウイルスに関する対応経過(まとめ)

監査結果 ①事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく表示しているものと認めます。

②理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

③計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に処理、表示しているものと認めます。

監査講評

○理事長、常務理事の指導、監督のもと業務は良好に執行されていました。

○素心会は設立70年を迎えるにあたり、新しい時代に即した基本理念作られました。

理事長の考えにより、次代を担う中堅職員を中心に見なおしを進め、2年をかけて「素心は利用者の自立と幸福を追求する。」と決定し、さらに追記として「命ある日々、素ノ心は変わらない」として、この理念が時代の流れにあっても、守り続けるものとしています。さらに職員が進むべき道を「仁智働結」と定められました。昨年の監事監査でお願いした「素心会に相応しい」ものになったと思います。

社会福祉法人は、ミッション(使命)のために設立された事業体として、理念がなければなりません。理念は与えられるものではなく、作り上げるべきものです。そして法人経営の最も基本的な目的は、理念の実現に向けて組織を維持し発展させることだと思います。今回のすばら

しい理念の実現に向けた行動をお願いします。

- 労働力不足は深刻であり今後も若年層の採用は難しくなる一方です。そこで職員不足対策として素心会では派遣社員を活用されていますが、外国人採用も考えられます。現在、「技能実習制度」がありますが新たに「育成就労制度」が創設されることになりました。外国人人材の活用は今後避けて通れないでしょう。とりわけ素心会のような知的障害者施設においてはさまざまな問題点が出てくると思いますが、新たなチャレンジとして外国人人材を検討中とのこと。引き続き派遣社員を含めたさまざまな人材活用方法を検討されるようお願いします。
- 就労継続支援B型への取組みが成果を上げ、工賃が大幅にアップしたのは大変評価するところです。ただ令和6年度の報酬改定において、工賃の更なる向上のため、平均工賃月額が高い区分の基本報酬の単価を引き上げ、低い区分の基本報酬の単価が引き下げられましたので、引き続き平均工賃月額の水準を高くできるようご尽力願います。
- 素心学院における利用者の平均年齢は57.6歳、60代以上の方が30名（43%）を占めるなど高齢化・重度化が進んでいます。令和6年度の報酬改定において指定障害者支援施設等は、「利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ、利用者の地域生活への意向に関する意向を把握し、当該意向を定期的に確認するとともに、相談支援事業者等と連携を図りつつ、利用者の希望に沿って地域生活への移行に向けた措置を講じなければならない。」とされました。実際に入所施設以外で暮らすための社会資源は充足しておらず、地域生活移行が難しい現状がありますが、利用者の高齢化・重度化が進む素心学院において、意思決定支援をできることから進め、ご本人の意向を確認しながら、どんな支援があれば施設以外で生活できるかを検討するなど、ご本人が望む生活を実現するための支援を突き詰めることをお願いします。
- 共同生活援助（さざんかホーム）における利用者の平均年齢は60.5歳、60代以上の方が14名（60%）を占めるなど、素心学院と同様に高齢化・重度化が進んでいます。グループホーム利用者で65歳以上の者については、介護保険サービスへの移行を優先するという援護地の意向が強まっていますが、利用者が安心・安全に地域生活を継続することができるよう関係機関との更なる連携強化をお願いします。また、利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制に継続して取り組まれるようご尽力願います。

（５） 県許認可・指導事務等

ア 定款変更認可

神奈川県指令 地福 第 2469 号

認可日 令和6年12月25日

変更内容（基本財産の追加）

変更後

第4章 資産及び会計

第28条2項

（1） 建造物

ケ 神奈川県中郡大磯町生沢字谷戸904番地所在の木造銅板ぶき2階建

さざんかホームC 一棟（166.55平方メートル）

(2) 土地

ク神奈川県中郡大磯町生沢字谷戸 904 番

宅地 (1,109.75 平方メートル)

イ 神奈川県指導監査

日時 令和 6 年 6 月 25 日 (火) 9 時 30 分～15 時 30 分

実施施設 素心学院

会場 素心学院 地域交流室

文書指摘事項 なし

- 口頭指摘事項
- 1 感染症及び食中毒が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講じてください。
 - 2 個別支援計画に、利用者及びその家族の生活に対するその意向が反映されるよう配慮してください。
 - 3 事故が発生した場合は、県、市町村、利用者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じてください。

ウ 神奈川県特別監査（総合支援法第 48 条 1 項及び 3 項）

日時 令和 7 年 3 月 6 日 (木) 13 時 30 分～18 時 30 分

実施施設 素心学院

さざんかホーム

会場 素心学院 地域交流室

(6) 登記事項

ア 役員に関する事項

令和 5 年 7 月 4 日登記 理事長 萩原勝己 重任 令和 5 年 6 月 27 日

イ 資産総額の変更

令和 6 年 6 月 27 日登記 令和 6 年 3 月 31 日 変更 1,770,888,700 円
(令和 5 年 3 月 31 日 変更 1,817,352,892 円)
(令和 4 年 3 月 31 日 変更 1,848,784,898 円)
(令和 3 年 3 月 31 日 変更 1,855,077,024 円)

(7) 重点事項への取り組み

重点課題		実施（完了）事項	継続 終了
法令順守と健全経営に関する取り組み	自己点検シートを中心とした点検体制の確立	各部署で自己点検シートに取り組む。 煩雑になりがちな業務実態上、更に頻度を上げ、意識を強め取り組むことが必要。	継続
安全と安心のための環境整備	防災体制の見直しと強化 修繕及び業務省力化計画の実施	備蓄してある防災用品の確認・点検。トイレ対策用品便座設置型の処理用具を追加。	継続
人材の確保と育成	幅広い年代、多様な働き方による人材の確保 外国人特定技能職員採用に関する調査・検討	人材派遣、人材紹介の活用。 特定技能職員としてインドネシアより 20 歳代 2 名の採用。	継続
ニーズと制度設計に応じた取り組み	意思決定支援等法改正に伴う検討と対応 グループホームの再整備 地域共同福祉ショップの運営	・意思決定支援ガイドラインの共有と個別支援計画様式の変更 ・大磯町生沢にグループホーム再整備に伴う建設用地を購入し、設計・建築業者の選定。 ・大磯町の支援及び大磯町作業所等連絡会と共同し大磯町横溝千鶴子記念障害福祉センター2 階に、10 月 31 日、地域共同福祉ショップ「パンと野菜の店 福祉ショップ Aobato2 号店」を開設。	継続 継続 継続
社会福祉充実計画への取り組み（具体的な地域貢献事業への取り組み）	非該当	継続	

(8) 委員会活動状況

名称	開催数	主な活動状況																																										
防災対策委員会 (消防法令他)	会議 5 回	引き続き、BCP（災害時事業継続計画）及び BCP 別冊の検証・更新を進め ライフライン確保マニュアルの検証を中心に、防災用備蓄品リストの確 認、不足品等の補充、整理を実施した。																																										
衛生委員会 (労働安全衛生法、就業 規則、衛生委員会規則)	会議 2 回	1 労災について 報告は 3 件 デイセンター：①通勤時単独でバイク転倒事故 肋骨骨折、数日 検査入院し異常なし 自宅療養 支援センター：①膝の上に乗せた幼児が突然動き出し、頭が胸に 強く当たった。胸骨及び肋骨打撲 ②室内遊び中、児童の危険な動きを制止した際、 机の脚に左足小指を強打した。左足小指骨折の 疑いと打撲 2 過重労働について（月 45 時間以上） 報告は 1 件 グループホーム：職員退職に伴う勤務調整が必要となり、本人了 解のもとやむを得ず勤務 3 各事業所巡回報告（働きやすい職場環境づくり） 特に報告なし 4 健康管理について（健康診断、メンタルヘルス、腰痛 等） ①定期健康診断を 10 月に実施し、健診結果で就業制限の必要な者はいなかった。 ②平成 28 年度からメンタルヘルス対策の一環として義務付けとなった「ストレ スチェック」を 11 月全職員対象に実施した。 対象者 92 人 回答者 83 人 回答率 90.2% <table><tr><td></td><td>R6 年度</td><td>R5 年度</td><td>R4 年度</td><td>R3 年度</td><td>R2 年度</td><td>R 元年度</td></tr><tr><td>ストレスが高い</td><td>20.5%</td><td>15.6%</td><td>17.6%</td><td>12.0%</td><td>15.0%</td><td>8.9%</td></tr><tr><td>やや高い</td><td>22.9%</td><td>25.8%</td><td>20.6%</td><td>26.1%</td><td>21.8%</td><td>21.5%</td></tr><tr><td>中程度</td><td>28.9%</td><td>33.6%</td><td>29.0%</td><td>31.0%</td><td>28.6%</td><td>32.6%</td></tr><tr><td>低い</td><td>24.1%</td><td>21.9%</td><td>28.2%</td><td>26.8%</td><td>27.1%</td><td>32.6%</td></tr><tr><td>評価不能</td><td>3.6%</td><td>3.1%</td><td>4.6%</td><td>4.2%</td><td>7.5%</td><td>4.4%</td></tr></table> ③理学療法士による腰痛体操を各事業所 1 回ずつ実施した。 5 その他 ①委員会の開催は定期健康診断・ストレスチェックの結果が出た後に 1 回、そ の他月次の確認事項、報告事項等については毎月各事業所と連絡を取り、ま とめたものを供覧する形で情報の共有を図った。 ②新型コロナウイルス対策については、第 5 類に移行した後も原則法人の「新 型コロナウイルス対応マニュアル」に基づき、各事業所感染防止に努めた。 ③平成 27 年度より（社福）福利厚生センター「ソウェルクラブ」に法人負担で 全職員加入し、 福利厚生の充実を図った。		R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度	ストレスが高い	20.5%	15.6%	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%	やや高い	22.9%	25.8%	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%	中程度	28.9%	33.6%	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%	低い	24.1%	21.9%	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%	評価不能	3.6%	3.1%	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%
	R6 年度	R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度																																						
ストレスが高い	20.5%	15.6%	17.6%	12.0%	15.0%	8.9%																																						
やや高い	22.9%	25.8%	20.6%	26.1%	21.8%	21.5%																																						
中程度	28.9%	33.6%	29.0%	31.0%	28.6%	32.6%																																						
低い	24.1%	21.9%	28.2%	26.8%	27.1%	32.6%																																						
評価不能	3.6%	3.1%	4.6%	4.2%	7.5%	4.4%																																						

		④大磯町消防署に依頼し、AED 研修会を実施した。																					
研修委員会 （障害者総合支援法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準・各運営規程・素心会研修規則）	会議 7 回	1 職員の資質、専門性の向上を図るため、研修規則・研修要項に基づき次の研修を実施した。 2 当年度の研修 （１）基礎研修 <table><tr><th>内容</th><th>実施日</th></tr><tr><td>知的障害の特性と知的障害福祉の歴史</td><td>令和 6 年 6 月 14 日</td></tr><tr><td>自閉症</td><td>令和 6 年 10 月 18 日</td></tr><tr><td>倫理・人権（虐待防止）</td><td>令和 6 年 9 月 13 日 コロナ発生のため資料配布</td></tr><tr><td>感染症の予防とまん延防止・てんかん</td><td>令和 6 年 11 月 15 日</td></tr><tr><td>介護技術</td><td>令和 6 年 7 月 12 日</td></tr><tr><td>記録・接遇</td><td>令和 6 年 12 月 6 日</td></tr><tr><td>ダウン症・高齢化</td><td>令和 7 年 1 月 17 日</td></tr><tr><td>リスクマネジメント</td><td>令和 7 年 2 月 21 日</td></tr><tr><td>制度</td><td>令和 7 年 3 月 18 日</td></tr></table> （２）基幹研修 テーマ ホームページリニューアルを通じた取り組み 進行等 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター 参加者 ①課長・主幹・リーダー ②常勤若手職員 内容 別紙「職員育成を主軸としたコンサルティング業務」報告書のとおり （４）外部研修 施設・事業所ごとに実施。実績は各事業所の報告にて		内容	実施日	知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和 6 年 6 月 14 日	自閉症	令和 6 年 10 月 18 日	倫理・人権（虐待防止）	令和 6 年 9 月 13 日 コロナ発生のため資料配布	感染症の予防とまん延防止・てんかん	令和 6 年 11 月 15 日	介護技術	令和 6 年 7 月 12 日	記録・接遇	令和 6 年 12 月 6 日	ダウン症・高齢化	令和 7 年 1 月 17 日	リスクマネジメント	令和 7 年 2 月 21 日	制度	令和 7 年 3 月 18 日
内容	実施日																						
知的障害の特性と知的障害福祉の歴史	令和 6 年 6 月 14 日																						
自閉症	令和 6 年 10 月 18 日																						
倫理・人権（虐待防止）	令和 6 年 9 月 13 日 コロナ発生のため資料配布																						
感染症の予防とまん延防止・てんかん	令和 6 年 11 月 15 日																						
介護技術	令和 6 年 7 月 12 日																						
記録・接遇	令和 6 年 12 月 6 日																						
ダウン症・高齢化	令和 7 年 1 月 17 日																						
リスクマネジメント	令和 7 年 2 月 21 日																						
制度	令和 7 年 3 月 18 日																						
虐待防止委員会 （障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等の人員、設備及び運営に関する基準）	会議 1 回	1 日時 令和 6 年 7 月 18 日（木） 10 時より 12 時 2 場所 素心学院 地域交流室 3 出席 萩原理事長 高瀬常務理事 長谷川施設長 小野田所長 鈴木所長 川崎課長 第三者委員 中野弁護士 岩本社会福祉士 4 議案 （１）社会福祉法人素心会の事業実施状況及び苦情等に関する状況報告 （２）虐待防止・予防に係る取り組み状況について （３）身体拘束適正化に係る取り組み状況について																					
リスクマネジメント 推進委員会 （障害者総合支援法・障害者虐待防止法・事業等	会議 7 回	1 法令順守と安全推進強化月間の取り組み 啓発ポスターの作成 各職員会議において呼びかけ 2 虐待防止・人権擁護に関する取り組み 虐待防止研修 1																					

の人員、設備及び運営に関する基準・素心会利用者の安全に関する規則)		実施日 令和7年2月28日 場 所 素心学院地域交流室 内 容 アンガーマネジメント 虐待防止研修2 実施日 令和6年6月～10月（各グループ会議にて） 内 容 虐待防止指針の読み合わせと意見交換 虐待防止のための職員セルフチェック 実施日 令和6年9月9日～9月30日 内 容 虐待防止のためのセルチェックの実施と集計 他所における虐待事例の共有 等 4 利用者の安全に関する取り組み 安全運転マップの見直し ヒヤリハット報告書の集計と報告 事故報告書の集計と検証 等
広報委員会	会議9回	素心会が運営する事業全体に関する情報について、関係者・関係各機関をはじめ広く社会全般に提供し、障害者と福祉現場への理解と協力を求めることを目的に活動している。 1 広報誌「素心」編集、発行 75号 令和6年7月発行（900部・カラー6ページ） 76号 令和7年1月発行（900部・カラー6ページ） 2 素心会ホームページ トピックスの更新「マイクローバス購入にあたっての助成金のお礼」「大磯町石神台マルシェ」「大磯町美化キャンペーン参加」「ランチデイ開催」「公用車シェンタ購入にあたっての助成金のお礼」「大磯町立国府小学校の給食に『そしんのパン』を提供」「福祉ショップ『Aobato2号店』オープン」「第31回心創展開催」
給食委員会	会議10回	委託業者である(株)一富士フードサービスと素心会とで、各拠点における利用者状況を踏まえ次の検討を実施した。 ①献立について ②行事食の内容・実施方法について ③刻み、アレルギー等食事の提供形態について ④新型コロナウイルス感染防止対応について ⑤残食について ⑥食材費の高騰への対応について ⑦その他
感染対策委員会	会議3回	感染対策マニュアルの作成 研修会の実施

心創展実行委員会	会議 3 回	素心会利用者の芸術作品発表の場を 1 年を通して準備開催する。 1 第 3 1 回心創展 開催日時：令和 7 年 2 月 1 2 日（水）～ 2 月 1 6 日（日）（※ 2 月 1 1 日（火）搬入） 開催場所：平塚市美術館市民ギャラリー A 内容：利用者の作品展示（絵画・陶芸・書・オブジェ等） 来場者数：4 8 3 名
納涼祭実行委員会	会議 9 回	素心学院、地域支援センターそしん、素心デイセンター合同で納涼祭の開催を企画した。開催にあたり、例年 8 月上旬が納涼祭の開催日であったが、近年夏の酷暑が続いているため、参加者の安全を第一に考え 1 1 月上旬に延期した。1 1 月に開催予定のため、名称も「納涼祭」から「素心秋祭」へ変更し計画した。 開催に向け準備をすすめたが、開催当日の天候が雨であり、開催中止となった。 計画した内容は次のとおり。 日時：令和 7 年 11 月 2 日（土）11 時から 13 時 場所：素心デイセンターグラウンド 内容：模擬店、自主製品販売（パン・木工製品、機織製品等）、 パフォーマーによるシャボン玉ショー 吹奏楽団による演奏 参加者：利用者、保護者、職員、ボランティア、地域住民等

（９）地域における公益的な取り組み・地域密着事業・ネットワークづくり

- ・災害時緊急避難先協定（大磯町・二宮町）
- ・納涼祭の開催
- ・地域祭りへの参加
 - 神輿担ぎ手・休憩場所の提供
- ・定例会・休憩場所の提供
 - 二宮農園・子供農園等
- ・大磯町作業所等連絡会
- ・大磯・二宮安全運転管理者会事務局
- ・大磯町危険物安全協会

（10）職員の不祥事について

令和 7 年 2 月に発覚した職員の不祥事について、現在、監督官庁等の調査及び所管警察への相談、再発防止に向けた第三者委員会の設置準備等を進めているところである。

2 素心学院

(1) 概要

2024年度は入所定員を70名に減員し、引き続き新型コロナウイルス感染症予防を最優先にしつつも、週末帰宅・長期帰宅・全体行事・個別外出・短期入所・地域行事への参加等、「コロナ渦以後における新しい余暇支援の形」として従前とおり日常的に実施することができた。

6月に転院による男性利用者1名の退所（7月逝去）、8月に女性利用者1名の逝去、また2月に女性利用者1名の転院による退所（2月逝去）があったが、9月に男性利用者2名が入所となり、3月末時点の現員は68名となった。また職員では病気療養中であった常勤看護師1名が復職、非常勤職員採用と派遣看護師の採用を実施した。

新型コロナウイルス感染予防に十分留意したが、男子寮・女子寮双方にて、利用者・職員の集団感染を含む複数の罹患が発生、都度数週間の療養期間を余儀なくされた。幸い利用者・職員とも症状は軽く、重篤な症状の方はいなかった。

2月、新型コロナウイルス感染症ワクチンについて、対象となる利用者に協力医療機関のもと接種を実施した。

(2) 出身地別入所状況（令和7年3月31日 現在）

県 域	横 浜	川 崎	東京 他	計
61人	2人	3人	2人	68人

(3) 年齢構成（令和7年3月31日 現在）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0	1	1	8	10	17	4	1	42
女	0	0	1	9	7	2	3	4	26
計	0	1	2	17	17	19	7	5	68

平均年齢 59.1歳

(4) 入退所状況

退所者	市町村	退所日	退所理由
80歳 男性	茅ヶ崎市	6月25日	転院
73歳 女性	戸塚区	8月29日	逝去
80歳 女性	寒川町	2月27日	転院

入所者	市町村	入所日	入所以前の所在
64歳 男性	藤沢市	9月1日	グループホーム
64歳 男性	藤沢市	9月1日	グループホーム

(5) 健康管理

毎月看護師が体重・血圧測定を実施、また各寮にて毎日定時に検温・血中酸素飽和度測定を実施した

(6) 主な入院

入院者	入院期間	疾病・治療内容	医療機関
K・F	R6. 4. 18～5. 7	てんかん発作	湘南大磯病院
	R6. 12. 9～R7. 2. 27	てんかん発作	湘南大磯病院
S・Y	R6. 5. 14～6. 12	統合失調症	富士見台病院
I・M	R6. 5. 20～5. 28	逆流性食道炎・貧血	湘南大磯病院
S・A	R6. 5. 20～6. 25	誤嚥性肺炎	湘南大磯病院
I・M	R6. 5. 21～6. 19	右大腿骨頸部骨折手術	湘南大磯病院
U・T	R6. 6. 11～6. 14	神経線維腫手術	東海大学伊勢原病院
K・K	R6. 8. 14～8. 21	肺炎	湘南大磯病院
	R6. 9. 3～10. 4	腰椎圧迫骨折手術	湘南大磯病院
		胸椎破裂骨折手術	湘南大磯病院
S・K	R6. 9. 10～10. 2	てんかん発作	平塚市民病院
Y・K	R6. 12. 29～R7. 1. 8	肺炎	湘南大磯病院
W・M	R7. 1. 7～1. 16	心不全	平塚市民病院

(7) 日中活動の状況（新型コロナウイルス感染症対策のためグループ再編し寮別にて実施）

ア 活動種目

鈴の組立・木工・海岸清掃・施設内清掃・音楽・運動・レクリエーション・機能低下防止
法人墓地清掃

イ 作業奨励金

毎月一律千円を支給した

ウ クラブ活動

月二回、「絵画クラブ」を設定し寮別にて絵画作成を実施した

エ スポーツ活動

サッカー・ソフトボール・バレーボールを若年層向けに寮別にて実施した

(8) 防災訓練

日時	内容
令和6年10月 8日	通報訓練及び避難訓練の実施
令和7年 1月15日	通報訓練及び消化（模擬）訓練の実施

(9) ボランティア

新型コロナウイルス感染症対策のため施設への入館制限実施

(10) 月別利用実績数

施設入所（定員 70 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
4	148	147	148	149	145	150	153	146	149	151	139	154	1,779
5	504	493	459	493	419	423	456	447	445	404	391	432	5,366
6	1,387	1,381	1,390	1,451	1,432	1,446	1,510	1,447	1,464	1,461	1,367	1,514	17,250
合計	2,039	2,021	1,997	2,093	1,996	2,019	2,119	2,040	2,058	2,016	1,897	2,100	24,395

稼働率 95, 5%

生活介護（定員 70 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	21	19	18	19	0	0	0	0	0	0	0	0	77
4	110	113	109	111	119	129	137	130	125	114	99	115	1,411
5	394	403	358	391	348	332	361	352	368	337	299	343	4,286
6	1,062	1,078	1,057	1,118	1,095	1,061	1,122	1,065	1,104	1,110	977	1,126	12,975
合計	1,587	1,613	1,542	1,639	1,562	1,522	1,620	1,547	1,597	1,561	1,375	1,584	18,749

稼働率 99, 6%

(11) 短期入所実績（定員 5 人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2	0	3	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	10 人
3	0	0	0	0	0	0	0	2	8	3	0	3	16 人
4	5	12	10	14	7	7	8	6	0	10	2	5	86 人
5	4	11	8	32	33	32	43	40	35	45	28	34	345 人
6	24	24	26	24	9	0	15	8	2	17	28	0	177 人
計	33	50	44	73	49	43	66	56	45	75	58	42	634 人

稼働率 36, 8%

(12) 行事等

月	学院	地域行事	保護者会	帰宅・帰院
4	1日 新年度			
5	24日 ピクニック外出 31日 ピクニック外出	12日 道普請 26日 美化キャンペーン		1日～5日 帰宅期間
6	27日 歯科検診			
7	12日 バーベキュー外出 19日 ランチデイ 24日 カラオケ外出 26日 バーベキュー外出		7日 保護者会	
8				4日～10日 帰宅期間
9	4日 日帰り旅行 6日 日帰り旅行 13日 日帰り旅行 27日 日帰り旅行			
10	3日 音楽イベント 4日 買い物外出 9日 買い物外出 10日 健康診断 11日 ピクニック外出 18日 ピクニック外出 25日 秋の芸術祭	6日 秋の道普請		
11	6日 バーベキュー（学院） 8日 ピクニック外出 13日 バーベキュー（学院） 29日 ランチデイ	9日 大磯町福祉大会	17日 保護者会	
12	2日 移動動物園 6日 カラオケ外出 16日 大掃除 18日 クリスマス会 20日 餅つき			28日～ 1月3日 帰宅期間
1				

2	27日 歯科検診			
3			17日 保護者会	

(13) 職員研修

実施日	場所	参加者	内容
5月17日 6月14日 7月17日 9月11日 10月16日 2月12日	厚木精華園及び 素心学院(zoom)	佐々木	高齢者支援セミナー
① 5月11日・12日 ② 6月1日・2日 ③ 1月14日・15日 ④ 1月28日・29日 ⑤ 2月4日・5日	素心学院(zoom)	① 坂口 ② 矢野 ③ 佐々木 ④ 大内 ⑤ 小林(雪)	強度行動障害支援者養成研修(基礎)
7月4日～5日	メトロポリタン長野	坂口・勝俣	第52回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会 茨城大会
① 7月16日～30日 ② 1月15日～27日	eラーニング視聴	① 小池 ② 坂口	サービス管理責任者(補足研修)
10月3日～4日	福井県・福井市フェニックスプラザ	川崎・佐々木・小林裕	第60回全国知的障害福祉関係職員研究大会

*ほか、法人内基礎研修・基幹研修参加

(14) 重点事項への取り組みについて

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規入所利用者の確保 入所定員の維持	2名の利用者の入所利用 を実施した。	疾病に伴う転院・逝去があ り、今後も同様の退所が継 続するであろうなか、女性 利用者の短期入所体験等 積極的に進める必要があ る。	継続
地域生活支援拠点事業の 実施	生活支援拠点事業の緊急 短期を推進するための手 続きを委員会組織にて検 討した。	大磯町・二宮町に地域生活 支援拠点事業の実施申請 を行った。	実施は継続
医療的ケアの継続	事業所内1名の女性利用 者に胃ろうを実施した。ま た認定特定行為業務従事 者研修に職員を派遣、資格 取得者を増員した。	指導看護師の増員・安全委 員会の設置・手技確認・研 修への職員派遣等、定型が 確立された。	実施は継続

3 素心デイセンター

(1) 生活介護事業

ア 概要

令和6年度も新型コロナウイルスの感染者は多く利用者14名職員7名が罹患して、日中活動、送迎、稼働率などにわたり影響を受けたが、重篤な方はおらず、2年前のように閉所には至らなかった。

日中活動では班ごとの小規模なイベント（グラウンドの芝の上で玉転がし競争、カラオケ大会など）や七夕、ハロウィンの飾りつけ、絵馬づくりを行い、感染症防止対策を実施した上で餅つき大会、二十歳を祝う会やレクリエーション大会（運動会）やバーベキュー大会を開催した。バーベキュー大会は5年ぶりご家族に参加を呼びかけ、60名以上の利用者と家族が出席をした。秋祭り(旧納涼祭)は5年ぶりに実施する予定だったが、悪天候のために中止となった。個別面談は昨年度と同様に対面で行い、またグループ外出(温泉・博物館・江ノ島水族館・花菜ガーデン・箱根遊覧船乗船・御殿場線乗車体験・ボウリングなど)も実施し、また外部講師によるクラブ活動（音楽クラブ・絵画クラブ・書道クラブ）も週に数回行った。

生活介護全利用者の活動として、グラウンドに250鉢のビオラ、パンジー、ペチュニア・サルビア・ペンタス、マリーゴールドなどを植えたプランターを設置して水やり・季節ごとの植え替え・プランターの移動などを行い、利用者とともに種からひまわりやコスモスやチューリップを育ててプランターへ植え替えを行った。またグラウンドの芝刈りも利用者の作業として実施した。

生活1班（重度障害者支援）では、グラウンド歩行、身体機能維持訓練を昨年と同様に行い、近隣公園での歩行は週3回実施した。生活2班では絵画、機織り、陶芸、紙漉きなどを製作して、外部の展覧会にも出展して入選した作品(障がい芸術世界展・かながわともいきアート展)も数点あった。生活3班では自立課題・昼食時に使用するエプロンなどの洗濯作業・機織りを行なった。

昨年度、生活介護の新規利用者は2名であり、退所された利用者は1名であった。

イ 月別利用者状況 <定員45人>

令和7年3月31日現在

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	22	21	20	23	18	21	23	21	21	20	20	21	251
4	176	174	162	181	136	142	189	173	168	165	149	138	1953
5	338	375	336	372	269	323	371	346	322	319	310	330	4011
6	236	225	205	247	190	223	250	222	209	194	192	200	2593
計	772	795	723	823	613	709	833	762	720	698	671	689	8808

年平均稼働率77.5%

ウ 市町村別利用者数

令和7年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	小田原市	寒川町	熱海市	計
男	10	5	14	2	3	1	1	36 人
女	3	3	4	0	0	0	0	10 人
計	13	8	18	2	3	1	1	46 人

エ 年齢構成

令和7年3月31日現在

	19 歳以下	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
男	1	6	14	11	3	1	36 人
女	1	3	1	4	1	0	10 人
計	2	9	15	15	4	1	46 人

平均年齢 37.6歳

オ 送迎サービス利用状況

令和7年3月31日現在

コース名	車 輦	コース	乗車人数
大磯平塚コース	ワゴン車	めぐみが丘＝高村団地＝山下団地＝西小磯	6 人
大磯二宮コース	ワゴン車	長者町＝生沢＝王福寺	2 人
大磯コース	ワゴン車	二宮＝さつきが丘＝富士見が丘	3 人
二宮コース	マイクロバス	山西＝押切＝小船＝百合ヶ丘＝石神台	7 人
平塚コース	マイクロバス	平塚駅南口＝袖が浜＝大磯駅	12 人
金目コース	マイクロバス	明石町＝追分＝岡崎＝広川	10 人
合 計			40 人

カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
歯科検診	6月27日		29人	松本歯科
総合健康診断	10月22日	身長 体重 血圧 視力 聴力 聴打診 血液検査 心電図 尿検査 胸部X-P	41人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月22日	希望者のみ	36人	寒川病院
インフルエンザ	11月12日	希望者のみ 1 回接種	32人	寒川病院

* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告をした。

キ 日中活動の状況

①活動種目

牛乳パックの手漉き紙製品の製作、機織り、花壇の整備、事業所間文書配達、芸術活動、自立課題。

②作業奨励金

毎月一律千円を支給した。

③運動

近隣公園への歩行及びグラウンド歩行。

④クラブ活動

内 容	備 考
絵画クラブ（第1・3・5月曜日午後）	クラブは、他の活動と平行して実施した。 講師または担当職員を中心に行った。 利用者の参加は希望制。
書道クラブ（第2または4月曜日午後）	
音楽Aクラブ（第2・4火曜日午後）	
パーカッションクラブ（毎週水曜日午後）	
陶芸クラブ（毎週木曜日午前）	
音楽Bクラブ（第3金曜日午後）	

⑤レクリエーション

外出・・・温泉、花菜ガーデン散策、地球博物館見学、サーカス鑑賞、箱根観光、ボーリング、相模原アクアリウム科学館見学、・江ノ島水族館見物・御殿場線乗車体験など。

行事・・・二十歳を祝う会・餅つき・秋レクバーベキュー

（2）就労継続支援B型事業

ア 概要

昨年、パン作業では開所した日は全てパンの製造、販売を行なった。大磯町役場の福祉ショップ「あおばと」では週に4回販売を行なっており、その他近隣の食料品販売店へは週3回の納品、二宮町町民センターのとしびショップ「なのはな」での販売も月に2回実施している。また大磯町、JA全農かながわ、産業能率大学、大磯町福祉事業所の協働事業も継続している。大磯町等へのイベント（チャレンジフェスタ・虫窪文化祭・石神台マルシェなど）も積極的に参加した。9月25日に大磯町長の要望により大磯町立国府小学校四年生の生徒と教員を対象にロールパン約120個を提供した。給食の前に体育館で、デイセンター課長とパン作業の現場職員による「障害について」をテーマにした45分間の授業も行なった。

10月31日に横溝千鶴子記念障害福祉センター2階に「Aobato2号店」がオープンした。オープン当日のセレモニーには大磯町長も出席されテープカットを行った。レジには長蛇の列ができて用意した400個のパンは15分ほどで完売した。「Aobato2号店」だけで、月平均40万円の売り上げがあった。パン作業全体の売り上げは昨年度4,582,944円から6,707,053円となり、利用者の毎月の平均工賃も昨年度の11,391円から15,110円にアップした。

イ 月別利用者状況 <定員15人>

令和7年3月31日現在

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
延べ利用者数	330	333	310	346	248	318	347	325	316	283	284	302	3742

年平均稼働率98.0%

ウ 市町村別利用者数

令和7年3月31日現在

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	相模原市	計
男	5	2	1	2	1	11人
女	1	2	1	0	0	4人
計	6	4	2	2	1	15人

エ 年齢構成

令和7年3月31日現在

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男	0	2	3	2	3	1	11人
女	1	2	0	0	1	0	4人
計	1	4	3	2	4	1	15人

平均年齢 39.4歳

オ 送迎サービス利用状況

令和7年3月31日 現在

コース名	車輛	コース	乗車数
金目コース	マイクロバス	大磯=化粧坂=六本北	1人
平塚コース	マイクロバス	大磯=平塚駅=虹ヶ浜	2人
二宮コース	マイクロバス	山西=押切=小船=百合ヶ丘=石神台	5人
大磯コース	ワゴン車	二宮=さつきが丘=シーベルホーム	1人
大磯二宮コース	ワゴン車	長者町=生沢=王福寺	1人
平塚コース別便	ワゴン車	国府本郷=西小磯	2人
合 計			12人

カ 健康管理

項 目	実施日	検診内容	被検査者	実施機関
歯科検診	6月27日		11人	松本歯科
総合健康診断	10月22日	身長 体重 血圧 視力 聴力 聴打診 血液検査 心電図 尿検査 胸部X-P	16人	寒川病院
腫瘍マーカー	10月22日	希望者のみ	15人	寒川病院
インフルエンザ	11月12日	希望者のみ 1 回接種	15人	寒川病院

* 日常の健康チェックは看護師が毎月体重及び血圧の測定を実施し各家庭に報告した。

キ 日中活動の状況

①作業種目

作業内容	作業工賃
パン作業	1,747,991 円
洗濯作業	729,900 円
グループホーム寝具洗濯作業	205,600 円
年間合計	2,683,491 円

* 平均作業工賃 一人 15,110 円/月

②レクリエーション

外出・・・映画鑑賞、ラーメン博物館、江ノ島水族館見物など

行事・・・二十歳を祝う会・餅つき・秋レクバーベキュー・カラオケ大会

(3) 日中一時支援事業

感染症防止対策のため実施していない。

(4) 生活介護事業・就労継続支援B型事業共通事

ア 行事等

月	デイセンター	保護者との関係
4		
5	平塚事業所合同説明会 24日	
6	歯科検診 27日	個別面談 (対面により実施)
7	七夕飾り 6月24日～7月10日 実習生 7月8日～12日 (生活介護)	個別面談 (対面により実施)
8	夏期休暇 14日～18日	
9		
10	秋レクバーベキュー 12日 健康診断 22日 AED研修 26日 ハロウィン (玄関装飾) 11日～31日 実習生 7日～18日 (生活介護) 実習生 28日～11月1日 (生活介護)	
11	そしん秋祭り 2日 (雨天のために中止) インフルエンザ予防接種 12日	
12	冬期休暇 30日～3日 もちつき 27日 クリスマス (玄関装飾) 4日～25日	
1	絵馬作り (玄関展示) 7日～17日 二十歳を祝う会 14日	
2	実習生 4日～5日 心創展 12日～16日	
3	お雛様作り (玄関展示) 2月25日～7日	

イ 職員研修

外部研修

	場所	参加者	研修内容
5月9日	社会福祉法人 湘南の風	片桐・横山・ 美濃島	令和6年度自閉症研究会 (応用行動分析・行動記録の取り方)
5月25日・26日	素心デイセンター (リモート)	横山	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
6月13日	社会福祉法人 湘南の風	千田・松井・ 石井	令和6年度自閉症研究会 (構造化)
6月15日・16日	素心デイセンター (リモート)	片桐	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
7月17日	素心デイセンター (リモート)	井上	ソウェルクラブ・オンライン研修 接遇講習会 中堅職員向け
8月8日	社会福祉法人 湘南の風	横山・永瀬・ 芹澤	令和6年度自閉症研究会 (自閉症eサービス現場評価キット A1の演習)
8月21日	素心デイセンター (リモート)	小清水	ソウェルクラブ・オンライン研修接遇 講習会 管理者向け
8月26日	神奈川県労働文化セ ンター	小清水	意思決定支援 ガイドライン研修
9月12日	社会福祉法人 湘南の風	小林・ 美濃島・千田	令和6年度自閉症研究会 (実践報告)
10月3.4日	福井市フェニックス プラザ	白野・宝利	全国知的障害者福祉関係職員研究会 (福井大会)
1月9日	社会福祉法人 湘南の風	宝利	令和6年度自閉症研究会 ※主催者の都合で中止
3月29日	素心デイセンター (リモート)	小林	食品管理責任者講習

※法人内研修

基礎研修を実施

※大磯消防署による普通救命講習Ⅱ(AED講習)を実施

※腰痛体操講習会を実施

※虐待防止研修1「アンガーマネジメント」を実施

ウ 防災訓練

実施日	訓練内容
7月2日	火災を想定した避難訓練と通報訓練
10月23日	火災を想定した避難訓練と通報訓練

(5) 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
稼働率のアップ a 新規利用者の積極的な受け入れ b 福祉事業所合同説明会への参加 c 支援学校実習生の受け入れ	a、c 実習や見学など感染症防止対策を徹底して行った。 b 事業所説明会は昨年同様に参加した。	生活介護 2 名新規利用者を受け入れた。	継続する。
グラウンドの有効活用 a 園芸活動の充実 b イベント等の積極的な利用 c 利用者の作業としての活用	a プランター250 鉢を設置して利用者の作業として活用した。 b 班ごとの小規模なイベントの実施、全体のイベントとして 5 年ぶりに保護者も参加してバーベキュー大会を開催した。 c 芝刈りや除草などを行った。	プランター250 鉢を活用した園芸作業は活性化につながった。 バーベキュー大会は保護者と職員とのコミュニケーションが取れて有意義な時間であった。	継続する。
就労継続支援 B 型 a パン作業の充実 b パン作業の販路拡大と看板商品の開発 c 工賃アップ	a 大磯町役場福祉ショップ「あおぼと」での販売など確実に成果は出ている。 横溝千鶴子記念福祉センターに「Aobato2 号店」をオープンした。 b 農福学官の協働作業に参加して販路も広がりつつあった。各イベントにも積極的に参加した。	横溝千鶴子記念障害福祉センター福祉ショップ「Aobato2 号店」をオープンしたことにより充実した活動を行えた。 利用者の工賃は一人当たり 3719 円/月アップした。	継続する。
生活介護事業 a 日中活動の充実 b 自閉症支援の検討と実践	a、b グラウンドにプランター 250 鉢を設置して利用者の作業として活用した。	自閉症支援に関しては、室内だけの作業だけではなく園芸活動を積極的に行うことで活性化につながった。	継続する。

4 地域支援センターそしん

(1) 共同生活援助（さざんかホーム）

ア 概要

引き続き感染拡大防止対応において、迅速に情報収集ができ対応可能な枠組の中で安心が得られるように働きかけ実施してきた経過がある。

昭和 56 年から平成元年までに整備された神奈川県初の生活ホームの利用者像は一般企業等に就労し生活面においても比較的自立度の高い人たちだったが、それから 45 年ちかくの時間が経過し、利用者の高齢化による病弱者、重度者の増加が止まらない。ここ数年の間に逝去された利用者においては、確定診断では説明のつかない、かつ医学的根拠の立ちにくい症状を呈し、看取りまでを行った状況がある。昨年度においては、毎月の多科受診・定期的な医療精査を行っていたにもかかわらず、癌が認められ逝去に至っている。知的障害の方への医療説明は理解可能か、医療手技の判断は、決定は有効かなどと迫られ、ターミナルケアについても、コンサルテーションとして取り上げ、専門家を交えてチームで関わり見送った経過がある。強度のアレルギーで検査薬剤を吟味しても踏み込んだ検査ができなかった利用者、発見時には切除による延命が期待できたにもかかわらず手術を望まない親族、在宅であるグループホームにおいて利用者に対し出来ない、やれない線引きに藻掻いた日々。命の前に謙虚であろうとすればするほど家族（親族）・後见人・我々職員のそれぞれの権限・役割が立ちはだかり悩ましい日々。しかし、支援に限界を感じることはなく、最後の最期まで互いに精一杯の日常を送ったと支援者皆で噛み締めている。混沌とした中で利用者も支援者も不安一杯で、でも止められない毎日を共に過ごした実感がある。また一方で、精神科的治療・入院継続の利用者もあり、本人の今後の生活基盤（環境設定）を考えるに介護保険サービスへの移行を優先にという行政の意向と本人の状態像や介助度、支援内容をすり合わせるには乖離があり、後付けで認知という診断が追いかけてくる状態である。入所施設へも介護保険施設へも移動しにくい状況をも生みだしている。これは、利用者本人にとっても支援者にとっても安心・安全からは孤立し心身ともに居場所を失っていくことになる。それぞれの障害特性から関係性を築くまでには時間のかかる利用者もいる。これまでの経緯や現状を踏まえ、医療や介護、福祉といった縦割りを超えた調整と協働の機能を発揮すべきである。ホーム利用者の高齢化、重度化は進み続けているが、日々の営みの中で予防的・消極的な対応ばかりではなく、少しでも活力につながるように計画的に旅行を実施、バーベキューや季節の行事買い物外出や休日の調理活動など利用者の要望を聞き取り企画してきている。中間報告でも伝えてきているが防災への取り組みや支援体制の再整備から年度途中にかもめホームを閉じている。いろいろな嘆き・痛み・しんどい状況の中でも、希望や楽しみを暮らしの中で感じ取れるよう、新しいグループホームの立ち上げは、たくさんの思いを集めて、動き出した一年であった。

そのような中、令和 6 年度も以下の対応を重点的に行った

① 利用者の高齢化・重度化に伴う環境整備及び支援体制について

- ・ 2 階居室から 1 階居室への移動 〈歩行困難者への見守り及び安全な動線の確保〉
- ・ 地域支援センターそしんにおける入浴サービス 〈特殊浴槽・バスラックの使用〉
- ・ 腎臓病食・カロリー制限食・ペースト食・アレルギー除去食への対応

- ・看護師による医療的ケア（吸引・骨粗鬆症対応のテリボン接種・ボトックス・褥瘡処置など）
- ・新型コロナウイルス等感染防止の徹底・定期的な医療精査の実施

② 防災対策

- ・消防法改正への対応
- ・防災備蓄品リストの見直し・更新
- ・専門業者による消防設備点検

③ ホームスタッフの確保・育成、職員研修体制の確立

- ・ホームページ、広告等による積極的な募集・派遣業者の導入
- ・報告・連絡・相談の徹底（生活支援員会議・ホーム別スタッフ会議を実施）

④ 建物の老朽化改善について

- ・疾病・高齢者・重度者への対応、65歳問題等中期計画において根本的な方向性の確認、早急な整備を実現する
- ・想定される災害時のリスク回避（現状における危険個所の抽出と手当て）
- ・グループホームのあり方検討（プロジェクトとして実施・担当者会議にて意見徴収）

イ 月別利用実績

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
3	150	155	150	155	155	150	155	150	155	155	145	150	1,830
4	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	116	124	1,464
5	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	58	62	732
6	180	186	180	186	186	180	186	150	124	124	116	124	1,922
計	540	558	540	558	558	540	558	510	496	496	464	496	6,314

稼働率 72%

ウ 出身別利用者状況

県域（政令市を除く）	横浜市	川崎市	東京都	計
13人	1人	1人	3人	18人

令和7年3月31日現在

エ 年齢構成

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0人	1人	5人	2人	4人	0人	12人
女	0人	0人	2人	2人	2人	0人	6人

平均年齢 63.1歳

オ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0人	1人	4人	3人	1人	3人	12人
女	0人	0人	1人	1人	1人	3人	6人

カ 健康

毎月の体重測定、毎日の検温、血圧測定・パルスオキシメーターによる酸素飽和度の測定も実施し、疾患の早期発見、早期治療、重症化防止に努めている。健康診断・ワクチン接種も滞りなく行うことができています。新型コロナウイルス等感染症予防対策の徹底により1年間を通して罹患者は最小限に留め、周囲への拡大、重症化も回避できている。手指消毒・除菌水・マスク空気清浄機はもちろん食席も対面にならぬよう距離をおく、時間をずらすなど継続的に行っている。ゴーグル・シールド・ガウン・手袋等は常備し体調管理チェックシートの実施など管理体制も継続している。通院については、それぞれの主治医と受診方法や頻度を決めており医療との連携もスムーズに行うことができた。しかし、基礎疾患のある利用者の罹患においては重症化のリスクもあり入院に至っており図らずも難治性の疾患の発見に繋がった経過がある。

キ 就労等の状況

令和7年3月31日現在

	性	年	事業所名	内容		性	年	事業所名	内容
1	男	79	地域支援センターそしん	創作活動等	10	男	75	デイスサービス悠々苑	洗濯・畑他
2	男	60	柳川乳業（株）	創作活動等	11	男	47	エコセンター大磯（株）	不燃物処理
3	男	54	素心デイセンター	創作活動等	12	男	74	Studio クーカ	洗濯
4	男	76	地域支援センターそしん	配送仕分	13	女	62	素心学院	洗濯
5	男	55	（株）第一三共ハピネス	高齢デイ	14	女	53	素心デイセンター	創作活動等
6	男	55	リネックス（有）寒川	洗濯等	15	女	55	地域支援センターそしん	環境整備
7	男	57	素心デイセンター	創作活動等	16	女	77	地域支援センターそしん	
8	男	54	地域支援センターそしん	不燃物処理	17	女	77	地域支援センターそしん	
9	男	68	素心デイセンター	創作活動等	18	女	64	地域支援センターそしん	

ク 入院状況

性別	年齢	期 間	病 名	病 院
男	79	令和6年1月30日 ～令和6年5月7日	精神不穏・環境調整	富士見台病院
男	79	令和6年5月14日 ～ 継続中	精神不穏（再入院）	富士見台病院
男	60	令和6年7月5日 ～令和6年7月11日	腸間膜脂肪織炎？ （胃が腫れ緊急入院）	湘南大磯病院
男	76	令和6年11月18日 ～令和7年3月10日	コロナ感染 肺炎 入院中に左大腿骨転子 部骨折	湘南大磯病院
男	76	令和7年3月10日 ～継続中	湘南大磯病院から転院	高根台病院

男	78	令和6年7月22日 ～令和6年10月9日	胃がん 10月9日逝去	ピースハウス病院
男	77	令和6年8月22日 ～令和6年11月14日	コロナ感染 肺炎 肺がん 11月14日逝去	湘南大磯病院

ケ 入退所状況

令和6年10月 9日 78歳 男性 胃がんにより逝去

令和6年10月 14日 77歳 男性 肺がんにより逝去

コ 避難訓練

新型コロナウイルス感染症の関係よりグループホームにおいて訓練を実施。（防災行政無線による訓練はできず）各ホームにて防災備品・備蓄食料のチェック・補充を行い、緊急連絡・指示マニュアルの確認を行った。

月 日	ホーム名	参加人数	内容
7月21日	さざんかホーム	4人	火災を想定した避難訓練
7月21日	つばきホーム AB	7人	火災を想定した避難訓練
7月21日	かもめホーム	3人	火災を想定した避難訓練
7月21日	シーベルホーム	5人	火災を想定した避難訓練
2月11日	さざんかホーム	4人	津波を想定した避難訓練
2月11日	つばきホーム AB	6人	津波を想定した避難訓練
2月11日	シーベルホーム	2人	津波を想定した避難訓練

サ 重点事項への取り組み

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
新規利用者の獲得	関係機関より情報収集	在籍利用者の状況・住環境を総合的に判断し欠員の補充には至っていない	継続
ホームスタッフの確保・育成	求人広告等での募集 生活支援員・世話人の研修	世話人の高齢化もあり採用するも退職数に追い付かない 研修は実施できず書面にて啓発	継続
利用者の高齢・重度化に伴う 環境整備等および支援体制 について	ADLに応じ住空間の設定 福祉用具の導入（低床ベッド） 離床センサー・ナースコール等の設置 緊急連絡マニュアルの整備	今できる最大の配慮・手立ては行っている。（緊急度の優先順位において療養型への移行を進めることや介護認定の相談・依頼を行う）	継続

新型コロナウイルス感染症 拡大防止対応の徹底	感染予防マニュアルに基づ き適切な対応の徹底 必要な検査での医療精査	環境設定、衛生用品の充足、予防 対応・手技の確立・徹底	継続
後見人制度のすすめ	介護施設への移行・入院手 続き・契約等で必要となり 利用手続きを行う	援護の実施元の協力も得て親族調 査を行うが、次々と難題が立ちは だかる。申し立ての形態から検討。	継続

(2) 相談支援

ア 概要

相談支援事業は、引き続き大磯町基幹相談支援事業、二宮町基幹相談支援事業の受託と障害児者の特定相談支援、サービス等利用計画・障害支援区分認定調査を実施した。地域生活支援拠点を核として面的体制を構築する一役を担う体力をつけることに必死であった一年、止まることのない、そして更に牽引して起こるニーズに対し本人中心の相談支援を引き続き模索した一年でもあった。相談件数の増大、相談内容の複雑化の中で相談員数、対応時間、対応方法、社会資源の不足感は継続的に高まっている。地域に特定相談支援事業所が増えたものの、この状況下において地域事情の共有、制度における共通認識等の確認の場を持つ機会も限られ、基幹相談支援センターとしてのコントロールタワーの責務を痛感した。ネットワーク形成もタイムリーな支援につながりにくい状態が続いたせいかわたしよく共感や共有につながる土壌の再建に時間がかかっている。クライアントの発信と受け手の相談支援者のキャッチに差異が生じやすくニーズに対する具体的支援が叶わない場面もみられた。また、医療的ケア児支援法が制度化され、コーディネーターの配置により、インクルーシブなく本人・家族・地域への支援を求められてきている。障害のある人の個別課題として捉えるだけでなく、そこから見えてくる地域社会の課題としてとらえる視点を持つ、スキルや専門性を地域の共通財産として実践していかなければと思っている。社会情勢を反映して複合かつ多様な課題が後を絶たない中、このことに我々は引き続き量的、質的な対応力を高められるよう根本的な地域の相談支援体制の在り方、調整・連携について大磯町・二宮町の両町とともに継続的に検討する場をもっている。

イ 相談件数

		実人員	身体障害	重症心身 障 害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機 能 障 害	その他
大磯町	障害者	413	84	11	193	119	57	12	7
	障害児	129	12	7	72	11	65	3	5
	合 計	542	96	18	265	130	122	15	12
二宮町	障害者	402	101	14	176	103	58	11	8
	障害児	133	18	12	73	6	66	4	7
	合 計	535	119	26	249	109	124	15	15
総計		1,077	215	44	514	239	246	30	27

ウ 支援内容

	福祉サービスの利用等	障害や病状の理解に関する	健康・医療に関する	不安の解消・情緒安定	保育・教育に関する	家族関係人間関係に関する	家計・経済に関する	生活技術に関する	就労に関する
大磯町	1949	392	468	748	514	448	96	57	309
二宮町	1928	429	493	764	528	368	129	48	301
合 計	3,877	821	961	1,512	1,042	816	225	105	610

	社会参加	権利擁護	その他	合計
大磯町	109	84	36	5210
二宮町	157	87	12	5244
合 計	266	171	48	10,454

前年度合計 10,346

エ 支援方法

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
大磯町	321	169	102	4003	89	247	261	18	5,210
二宮町	319	202	119	4015	61	274	251	3	5,244
合 計	640	371	221	8,018	150	521	512	21	10,454

オ サービス等利用計画・障害支援区分認定調査

成人	計画数	モニタリング数	児童	計画数	モニタリング数
大磯町	101 件	87 件	大磯町	67 件	50 件
二宮町	110 件	76 件	二宮町	75 件	47 件
その他	7 件	6 件	その他	0 件	0 件
計	218 件	169 件	計	142 件	97 件
前年計	204 件	192 件	前年計	139 件	92 件

カ 障害支援区分認定調査

障害支援区分認定			
大磯町	58 件	二宮町	68 件
前年度	大磯町 42 件	二宮町	42 件

キ 関係機関との会議

地域自立支援協議会	圏域自立支援協議会	相談支援ネットワーク
精神保健ネットワーク会議	難病・特定疾患ケース検討会	重心関係機関連絡会

生活保護ケース検討会	児童養護施設関係者会議	母子保健メンタルヘルス会議
児童相談所連絡会議	特別支援教育連絡会議	教育委員会連携会議
要保護児童ケース会議	小児在宅ケア連絡会	児童精神医学研究会
高齢・障害連携会議	地域リハビリテーション会議	地域コンサルテーション

重点事項への取り組み＜相談＞

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
今後の地域における相談支援体制に関する検討	事例検討および関係者での情報共有の機会を定期的に設け両町担当者との会議も継続的に行う	定期的な意見交換や情報共有の機会是有効であり、課題については解決に向けシステムの構築等につながっている	継続
有資格者の確保・育成	実務経験等該当する人材については研修を受講 現従事者については更新の手続きを確実にを行う	研修・更新手続きについては滞りなく行っているが新たに相談に従事する専門員の確保には至っていない	継続

（３）児童発達支援（未就学）

ア 概要

これまでのようにコロナ感染対策においての自粛休園児童の数は少なかったが、併用している保育園や幼稚園でマイコプラズマや手足口病が類を見ない発症率での休園やインフルエンザや胃腸炎での兄弟姉妹の学校の閉鎖状況に応じお休みしたケースも多くみられた。マスクを着用できない子供も多く、また障害特性においてマンツーマン対応・密着が避けられない子供がほとんどであることから繰り返し体調管理、不良の際には（家族や周辺状況含め）発信を継続的にお願いしてきた。発達支援・家族支援・地域支援を柱に関係機関とも訪問やカンファレンスを行った。

- ・感覚（触れる・咬む・舐める・嗅ぐなど）としての拘りへの統合教育においては、早期療育の柱として機を逃すわけにはいかず感染予防対策をとりながら慎重に実施している。

- ・日ごろの散歩に加え、公園やつどいの場への外出の機会も増やし、交流・繋がりを深めた。

イベント（そしん市や運動会等）は保護者兄弟にも参加いただき成長を共有している。

- ・作業療法士の常勤配置により個別療育において、子ども本人への発達支援はもとより職員もスキルを身に付けていく機会となっている。また、不定期ではあるが心理職の導入もあり連動して療育体制を整備してきた。何よりも情緒の安定につながる療育環境を目標に、やってみようかなつられてやっちゃった・ちょっと楽しい・続きがやりたい・また明日ね、という子供たちの育ちの芽吹きを感じ自己肯定感の歩みだしを見逃さない・見守れる意識の積み重ねに力を注いでいる。

イ 月別利用者状況 <定員10人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
133	136	145	160	158	184	206	189	173	178	162	191	2,015

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	藤沢市	合計
695	1,315	5	2,015

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男子	8	35	443	641	164	1291
女子	0	108	332	200	84	724
合計	8	143	775	841	248	2,015

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2		精神	身体	重心	未取得	合計
0	502	295	422		0	71	0	796	2,086

カ 重点事項への取り組み <児童発達支援>

重点事項(計画)	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	食を営む力は生きる力 いのち 育ち 人間関係 楽しい食事の場面づくり	幼児食としての確立・嗜好 調査の未実施に課題が残る アレルギー対応・提供形態 の個別対応への協力が得られた(給食委員会で依頼)	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、 家庭・関係機関と連絡を密 に体調管理・予防策の徹底	継続

キ 避難訓練 令和6年9月17日 地震訓練 児童9名 職員6名 参加
令和6年11月21日 火災訓練 児童8名 職員6名 参加

(4) 放課後等デイサービス(小学1年から高校3年)

ア 概要

引き続き感染症予防に対しては、危険予測がしづらい状況ではあるが、危機管理に対する共通

認識が持てるよう努めながら、児童本人には特性に合わせた伝え方を工夫し、家族も含め周辺状況には繰り返しインフォメーションしてきている。

- ・感染防止を徹底する中でも生活力に加えそれを駆使して楽しめる力を育てていく目標を見失わないように心掛けた。生きた教材がある地域のなかで実践を通じ学ぶことに制約はあったが設定活動に重点を置いて取り組んだ。しかし放課後等デイサービスのあり方が問われる中、アセスメント・課題抽出・プログラムの構築等取りこぼしたことも引き続き多くあったことは事実である。
- ・家族支援においては、発達課題の大きい思春期の子どもや要保護のケース、稀少症例の疾患ケースなど関係機関とも連携し進めている。
- ・地域支援はインクルージョン推進の観点からも単なる情報共有にとどまることなくつながって活動していくことを意識した。医療的ケア児や重度重複・強度行動障害児童には、看護師・作業療法士・理学療法士・臨床心理士の支援や助言を得ながら療育的アプローチを行っている。子どもの理解につながる環境整備、日々の積み重ねと小さな発見を見逃さない、心と体の活力を生む支援体制を問い続けている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
384	379	359	416	332	367	433	381	380	360	351	375	4,517

ウ 住所別延べ利用実績(年)

大磯町	二宮町	中井町	秦野市	平塚市	横浜市	合計
2,390	2,127	0	0	0	0	4,517

エ 年齢別延べ利用実績(年)

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計	合計
男子	342	227	373	580	216	84	1822	4,517
女子	261	183	123	141	21	279	1008	
合計	603	410	496	721	237	363	2,830	
	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年	合計	
男子	567	0	252	182	1	173	1175	
女子	266	0	126	38	82	0	512	
合計	833	0	378	220	83	173	1,687	

オ 障害別状況

A1	A2	B1	B2	精神	身体	重心	合計
762	880	628	1686	305	237	146	4,644

※障害状況について 児童通所（児童発達支援・放課後等デイサービス）

四肢体幹機能不全、難治性てんかん、慢性肺疾患、低酸素脳症、白血病、視覚障害

聴覚障害、股関節変形症、レット症候群、水頭症、筋ジストロフィー 二分脊椎
プラダウィリー症候群、口蓋裂、双体性輸血症候群、脳腫瘍、心疾患などの重複がある。

カ 重点事項への取り組み <放課後等デイサービス>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
放課後デイのあり方研究 ソーシャルスキルトレーニングの実施	役割意識やルール、約束などの決まり事を小集団でのグループワークにて行う	計画的な積み上げに至らず 断続的な実施となったため 根本的対策を図っていく。	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、 家庭・関係機関と連絡を密 に体調管理・予防策の徹底	継続

キ 避難訓練 令和6年9月17日 地震訓練 児童12名 職員6名 参加
令和6年11月21日 火災訓練 児童17名 職員8名 参加

(6) 自立支援協議会

ア 概要

令和6年度は、3回の部会と2回の協議会および2回の研修会を開催した。部会での主な取り組みとしては、地域の相談支援体制を担う相談支援事業所の運営の困難さや、計画相談の対象者数の増大とニーズの複雑化を背景に各事業所が直面している課題等について意見交換を図るとともに協議会においてその内容を報告した。計画相談は、ひとりの相談者に対してニーズや課題を明らかにし、本人・家族・関係機関と関わりながら総合的な支援を推進する目的があるが、このような取り組みは一方通行ではなく、相談者や関係者への連絡・調整・信頼関係の構築と支援の方向性の再検討などが随時求められるため想像以上の時間を要することと、報酬単価の低さゆえにこの取り組みに真摯に向き合えば向き合うほど経営的には苦境に立たされるという矛盾に苛まれていること、また相談支援専門員の確保も容易ではなく、国は推奨していないにも関わらず全国的にはセルフプランによる支給決定者数の減少には至っていない等の制度上の問題点についても共有した。研修会については、令和5年度に引き続き災害対策の一環として緊急時のトイレ対策と初めての試みとなる湘南西部保健福祉圏域グループホーム連絡会と共催でストレングスモデルによるグループスーパービジョンを用いた事例検討会の計2回を開催した。前者についてはトイレを通して衛生教育や水環境の保全、災害時のトイレ対策などに取り組むNPO法人日本トイレ研究所より過去の大きな震災の際にトイレをめぐるどのような問題が生じたのかという事例をもとに緊急時に備えておくべき備品や初動対応について講演を頂いた。また、後者ではグループホームにおいて対応に苦慮しているケースの事例をもとに利用者支援に関わっている支援者から成る5名ほどの小グループに分かれて検討を行った。ストレングスモデルは、ケースが持っている強みや可能性に着目し課題の打開策を検討する試みであるが、参加者からは日常の支援に活かせる視点や活力を得られた有意義な機会であったとの感想が複数寄せられた。

イ 協議会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回 令和6年7月17日	二宮町民センター3Bクラブ室	・令和5年度活動報告 ・各事業所・機関の取り組み状況等について 委員19名 事務局10名
第2回 令和7年3月25日	二宮町民センター2Aクラブ室	・部会活動報告より（計画相談について） ・令和7年度活動計画について ・各事業所、期間からの報告（意見交換と情報提供） 委員18名 事務局11名

ウ 研修会・勉強会

日時	内容
令和7年1月28日	<災害時におけるトイレ対策> 講師 NPO 法人日本トイレ研究所 島村允也氏
令和7年2月6日	二宮町・大磯町障害者自立支援協議会部会・湘南西部保健福祉圏域グループホーム連絡会共催による事例検討会 （ストレングスモデルによるグループスーパービジョン）

エ 部会の開催と内容

開催日	場所	内容
第1回部会 令和6年6月27日	二宮町役場 第一委員会室	・令和5年度活動報告 ・令和5年度活動計画 ・グループホームに関する意見交換 委員10名 事務局10名
第2回部会 令和6年10月2日	二宮町役場 第一会議室	・研修会について * グループホーム職員向け研修会について * 相談支援について 1) 相談員の配置 2) 担当ケース件数 3) 困難ケース、計画相談実施上あるいは事業運営上の課題等について * 意見交換 1) 相談事業所が直面している課題 2) 相談事業所とサービス提供事業所 3) 福祉サービスの支給決定プロセス 委員11名 事務局12名

第3回部会 令和7年1月28日	二宮町民センター 2Aクラブ室	・令和7年度活動計画について ・日中サービス支援型グループホーム運営について ・災害時トイレ対策の研修 委員12名 事務局11名
--------------------	--------------------	--

(7) 生活介護

ア 概要

対象が高齢知的障害者や重症心身障害者であるため感染リスク・感染における重度化が心配される状況に常に怯えてきているが、罹患の拡大や影響なく過ごすことができている。少しの体調の変化も見逃さず、感染の周辺状況を迅速に情報収集し対応をとってきている。入浴・排泄・食事等ほぼ全てにおいて密接な介助が必要な利用者や家族のセーフティーネットとしての使命もあり、考え得る限り、できる限りの感染防止策を講じ支援を継続した。進行性の難病をもつ利用者は、状況の悪化により呼吸器や胃ろうの増設に至り長期の入院を経て復帰後、医療的ケアを実施している。ほとんどの利用者が側弯が進み、リハの関わりの効果を狙って模索が続いている。

・日帰り旅行等については周囲の罹患状況を見て、中止せざるを得ず、室内でのイベントに切り替え季節を感じられるものを取り入れ、役割やつながりを感じられる活動を進めてきた。

・障害の特性に沿って感覚に働きかける刺激を活用した関わり（香り・光・映像・音楽・温冷感等）で自己表現の手立てを模索している。

・理学療法士によるポジショニングや機能低下防止活動の実施、環境設定への助言を得ながら利用者・支援者ともに活動の目的や意味を問い続けている。

活動を通して小さな反応を見逃さず相互のやり取りを繰り返し、偶発的な反応がつながって必然的な表出に変わる瞬間を見い出すことができるよう関わり続けている。

イ 月別利用者状況 <定員20人>

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
4	0	0	0	0	15	0	0	0	10	19	18	20	82
5	0	4	4	4	4	4	5	4	4	4	3	4	44
6	276	270	269	273	227	207	250	204	202	212	200	218	2,808
計	276	274	275	280	246	211	255	208	216	235	221	242	2,939

ウ 市町村別利用者数

	大磯町	二宮町	平塚市	茅ヶ崎市	伊勢原市	小田原市	秦野市	その他	計
男	1	4	0	0	0	1	1	3	10人
女	3	3	0	0	0	3	0	2	11人
計	4	7	0	0	0	4	1	5	21人

エ 年齢構成

	19 歳以下	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
男	0	3	3	0	0	5	11 人
女	0	7	1	0	0	2	10 人
計	0	10	4	0	0	8	21 人

オ 障害者支援区分

支援区分	3	4	5	6
利用者数	1	1	1	18

カ 送迎サービス利用状況

コース名	車 輦	コース	乗車人数
A コース	リフト付ワゴン車	西小磯＝国府本郷＝富士見ヶ丘	5 人
B コース	リフト付ワゴン車	石神台＝国府本郷＝国府新宿	5 人
C コース	リフト付ワゴン車	中里団地	1 人
D コース	リフト付ワゴン車	山西＝百合ヶ丘	2 人
E コース	リフト付ワゴン車	国府新宿＝石神台	2 人
F コース	リフト付ワゴン車	西小磯＝梅沢	2 人
家庭送迎			4 人
合計			21 人

キ 健康管理

健康診断・腫瘍マーカー・インフルエンザ予防接種を実施。

日常の健康チェックは、来所時に看護師が行い、支援員が定時にて体温・血圧・SpO₂の測定を実施し、各家庭に報告、共有をしている。また月初に体重測定を行っている。医療的ケアの利用者へは、主治医の指示書に基づき看護師が行っている。

ク 日中活動の状況

園芸・・・支援センターを花で満たすためのプランター・花壇作りとその手入れ。

陶芸・・・食器や装飾品の製作。

創作・・・年中行事に関連した飾り作り、刺繍、編み物、絵画、紙漉き、ちぎり絵。

運動・・・毎週火・木曜日の午前、遊戯室にて実施。内容はラジオ体操、トランポリンやバランスボールを使用したエクササイズ、マット運動、ボーリング、玉入れなど
個別対応にて介助歩行、階段の昇り降り、マッサージやストレッチを実施。

音楽・・・鑑賞・楽器演奏・リズム遊び・合唱・音のゲームレクリエーション

清掃・・・毎週金曜日の午後に活動室内の掃除機かけ、台拭き、手すり磨き、モップかけ

ケ 避難訓練 令和6年11月21日 火災訓練 利用者11名 職員6名 参加

コ 入浴

福祉用具や手動式入浴リフトを使用した個浴と介護浴槽による入浴の実施。ケガ等により入浴制限のある方のシャワー浴や清拭も必要に応じて行なった。月曜日から金曜日まで毎日午前と午後に分けて、1日平均5名が入浴。定期利用されている方は8名。(入院3名を除く)

医療的ケアや処置のある方については、入浴場面に看護師を配置し実施している。

グループホームにおいて入浴が困難となった利用者については、状態に合わせた形態で実施。

サ レクリエーション

運動レク・・・ 天気の良い日は外気浴、公園などへの散策を楽しむ。

アニマルセラピー・・・ 動物とのふれあい・ドッグランの見学

外出・・・ 買い物・散策・お茶外出等を実施。

シ 行事・・・ そしん市・敬老会・クリスマス・餅つき・誕生日会などを実施。

ス 保護者との関係

*個別面談の実施 *保護者懇談会・給食試食会は検討するも未実施

セ 重点事項への取り組み <生活介護>

重点事項（計画）	取り組み内容	評価・課題	継続・終了
給食サービスの実施	安全で安心な食事提供 楽しみを感じる食事	配慮食としての確立・嗜好調査の未実施に課題が残る	継続
感染症拡大防止の徹底	感染症マニュアルに従い 適切な予防対応の実施	環境設定・衛生用品の充足、家庭・関係機関と連絡を密に体調管理 予防策の徹底	継続

（８）職員研修

日時	場所	参加者	内容
令和6年10月15・16日	福祉保健交流センターウィング横浜	西垣	サービス管理責任者実践研修
令和6年 10/29 12/21 12/22 令和6年 10/24	神奈川県立こども医療センター 茅ヶ崎特別支援学校	西山希	医療的ケアコーディネーター研修

*法人内研修 <基礎研修・基幹研修> <腰痛予防研修>

（９）地域への協力（会議室・遊戯室・カフェの貸し出し）

利用団体	利用日	内容	利用人数
（二宮農園・子ども農園）	2回/月 日曜日	自然栽培	15人/回
グリーンエネルギー湘南（太陽光）	不定期	会議・活動	20人/回